

共同研究室

昭和五三年度第四回研究会（六月三十日）

▼テーマ 社会主義経済管理構造の多様性をうみだすもの

——ソ連・ユーゴスラヴィア・ハンガリー・ポーランドを比較し

て——

報告者 芦田文夫氏

昭和五三年度第五回研究会（七月七日）

▼テーマ 京都における老舗の経営哲学

報告者 足立政男氏

報告要旨 先祖代々ひとつの家業を営み、その暖簾を守つ

て同一町内に四百二十余年も永続し、継承されて今日に至り、しかも、京友禪といえは千總ちもつ、千總ちもつといえは京友禪と、業界はもちろん、日本国中の一般顧客のあいだでその名声をうたわれ、遂に世界的にもその逸品が認められるに至った株式会社千總（当主十四代西村總左エ門家）の経営哲学について分析し、発表した。

一、正々堂々、正直正路の経営

共同研究室

二、質素、儉約の経営哲学

三、家業第一主義の経営哲学

四、本家第一主義の経営哲学

五、慎重で用心深い経営哲学

六、有坐之器の経営哲学

七、商いは牛のよだれの経営哲学

八、品質一筋の経営哲学

九、進取、開発、創造の経営哲学

十、三方よしの経営哲学

十一、和合団結の経営哲学

十二、天に宝を積む経営哲学

以上の経営哲学をルーツにした(株)千總の経営は愈々その実績をあげ、京都の伝統産業の保持と振興の旗手として、益々繁栄していることを、史実と当主の証言を基にして発表した。